

第6節 湖北地域～「水のある風景」と「田園風景」を守る環境づくり～

〈湖北地域振興局〉

地域の概況、課題、環境づくりの方向

湖北地域は、伊吹山地や野坂山地などの山々と琵琶湖北湖に囲まれ、その70%が森林で占められ、その中を琵琶湖と淀川の源流である姉川をはじめとした河川が流れています。これらの河川は、深山の広葉樹林に支えられる一方で、湖北の地域用水を支えるとともに、伏流水となって上流域から下流域にかけて、各所に湧水をもたらし、居醒の清水や泉神社湧水（米原市）、御前水（長浜市）など生活の中に根ざした豊かな水文化や森林文化を育んできました。

また、この地域は、県内最高峰の伊吹山頂に広がる高山植物群や深山に生息するイヌワシ、主に湧水地域に生息する魚類ハリヨといった貴重な生き物をはじめ、遠浅の湖岸に広がるヨシ原やそこに集まる水鳥など、多くの生き物が生活する豊かな自然環境に恵まれています。

このような湖北地域ならではの自然風景・湖北らしい環境を次の世代へ残していくため、様々な地域活動団体が、自然環境や里山の保全活動などに地道に、かつ、活発に取り組んでいます。

このような中、平成18年(2006年)10月21日に琵琶湖環状線が開業し、これにより豊かな自然風景や歴史・文化遺産を求めて多くの観光客が湖北地域へと足を運ぶようになり、湖北地域の活性化へ向け歩みはじめました。

そこで、自然環境や歴史・文化遺産の保全を次の世代へ継承するとともに、これらを広く語り伝えていく取組を地域の活動団体と協働しながら推進し、湖北地域にふさわしい施策を積極的に展開していきます。

取組

1 身近な水環境づくり

琵琶湖の源流・湖北の河川や生活と深くつながった湧水地を保全し、子どもたちが川遊びをする水辺を取り戻すための事業を展開しています。

(1) 流域アジェンダ実践促進事業（環境課）

（概要）

湖北地域には、姉川をはじめとして大小様々な河川が琵琶湖に流入していますが、それぞれの河川の流域には、その河川ごとに特色ある自然環境が見られるとともに、流域で営まれてきた人々の生活にもいろいろな風習などが見られます。

このような河川流域を単位とした水環境保全の取組を推進するため、平成14年(2002年)8月に地域住民主体の流域ワークショップ「姉川流域環境づくりフォーラム」を設置し、マザーレイク21計画に基づいた水環境保全の取組を展開しています。

（目標）

姉川流域環境づくりフォーラムで策定された環境取組指針（実践行動計画）に沿って、主要な河川の流域における自然環境や水環境（風土や歴史を含む）について、地域住民自らが再認識し、流域ごとの特性に根ざした身近な取組を実践していただくことを目標にしています。

（結果）

余呉川流域で「歴史と水の探訪ウォーク」を開催した（参加者45人）ほか、地域活動や総合学習の場などで自然観察の指導者として活動される方などのスキルアップを図る講座として、里山の昆虫についての「観察ガイド養成講座」を開催しました（参加者23人）。

また、「姉川フォーラム通信」や「余呉川の歴史と水マップ」を発行し、地域の環境情報を提供することにより、地域住民らが主体となった環境保全活動の活性化を働きかけるとともに、湖北地域の各団体が実践している環境学習プログラムの事例を紹介した冊子「湖北の環境学習プログラム事例集」を作成し、各団体間の交流や連携、各団体における後継者の育成等、取組の輪が広がるような環境学習を推進しました。

（結果の評価）

姉川流域環境づくりフォーラムとの協働を軸に、環境保全に向けた取組をより広範な地域へと広めることができました。特に、平成15年度から取組を

始めた探訪ウォークでは、姉川、高時川、天野川、余呉川へと展開する中で、各流域の環境資源とその保全に向けた意識の掘り起こしを図ることができ、流域内外の活動団体や参加者との交流を深めることができました。

（今後の展開）

今後もこれらの取組を継続して実施し、さらに活動を充実したものとするため、姉川流域環境づくりフォーラムをはじめとした活動団体との連携を強化し、湖北地域での流域アジェンダの一層の広がりを図っていきます。



余呉川流域歴史と水の探訪ウォーク

（2）早崎内湖周辺ピオトープネットワーク検討調査事業〈環境課・田園振興課〉

「第1編第1章第2節6」（24頁）を参照してください。

2 地域資源の有効活用と循環型社会づくり

有機質資源の農地還元システムや里山の利用と保全をはじめとする地域循環型の社会づくりを進めるための事業を展開しています。

（1）木材資源の積極的な活用〈森林整備課〉

（概要）

湖北地域の森林は、戦後に植栽された伐期間近の35年生～45年生のスギ林が多くを占めています。しかし、間伐された材（間伐材）が利用されないため、間伐材が林内に放置されたままであったり、森林整備が不十分な場所も少なくありません。

この間伐材を含めた地域材を積極的に利用することによって、地域の活性化はもとより、適切な森林整備を一層進めていきます。また、二酸化炭素の吸収固定による地球温暖化防止の効果が期待でき、森

の持つ様々な公益的機能を十分に発揮させることにもつなげていきます。

（目標）

平成17年度のデータをもとに、間伐材を低価格で搬出する高性能林業機械を導入する実証試験を行い、間伐の促進を図るとともに、消費者に対し、地域材の利用を促進するための普及啓発を行うことを目標としました。

（結果）

実証試験の結果、間伐面積8.98haに対し400m³程度の伐採木を搬出できました。これまで、間伐材の搬出については経費の関係でできないという先入観がありましたが、場所の選定や方法を考慮することにより、経費に見合った搬出の可能性がわかり、間伐自体にも弾みがつきました。

また、びわ湖環境ビジネスメッセなどで間伐材を使った製品を展示し、消費者にPRすることができました。

（結果の評価）

実証試験の結果、「間伐材搬出モデル林」として普及啓発に活用できる場所が4箇所（長浜市相撲庭、木之本町石道、余呉町下余呉、西浅井町山門）できたことで、森林所有者の経営意欲の向上に役立てることができました。

（今後の展開）

間伐材を低価格で搬出するには、列状に間伐することや高密度に道を配置する必要があります。そのため、列状に間伐することで残した木が雪害に遭うのではという森林所有者の不安を解消することや、残した木の成長を促進させることを理解してもらうことが大切です。

今後とも、消費者に対し、地域材の良さや地域の森林保全に対する普及啓発を展開していきます。



フォワーダーによる間伐材の搬出

(2) 農村下水道汚泥の堆肥化利用システムの推進

〈田園振興課〉

(概要)

今まで焼却処分されていた農村下水道施設の汚泥と家庭の生ごみなどの有機質資源を堆肥化し、化学肥料の多用により活力(地力)が低下している農地に還元するシステム(以下、コンポスト施設)を推進しています。

(目標)

平成19年度からコンポスト施設を本格的に稼働させることを目標としています。

(結果)

平成19年(2007年)2月から米原市藤川で「コンポストセンター息吹」が稼働しはじめました。

(結果の評価)

コンポスト施設は完成しましたが、現在は試験的に稼働しはじめている段階であり、本格的な稼働には至っていません。

(今後の展開)

今後、コンポスト施設の本格的な稼働に向け、運転操作の体制整備を進めていきます。

3 地域に根ざした水文化・里山文化の見直し

自然と環境に根ざした水文化・里山文化を反映した環境学習を地域とともに進めるための事業を展開しています。

(1) 湖北エコミュージアム創造事業

〈地域振興課〉

(概要)

湖北地域では、豊かな自然や歴史遺産、伝統的な生活様式、地場産業といった地域資源をより良い状態に保全し、住民自らが調査研究し、かつ、学習していく活動を通じて、地域住民が地域に愛着と誇りを感じ、生き生きと暮らせる湖北地域を創造するための湖北エコミュージアム構想を推進しており、そのマスタープランを平成14年度から平成15年度にかけて策定しました。

これに基づき、平成15年度から、各地域で自然環境や歴史遺産などを守る活動をしている地域団体(サテライト)相互の交流を促進するための「サテライト交流会」や湖北の語り部として活躍できる地域学芸員を養成するための「地域学芸員養成講座」

の開催、さらには、地域の自然や歴史・文化にふれ、かつ、地域学芸員の実践の場づくりとして「エコツアー」を実施しています。

(目標)

平成18年度は28人の地域学芸員を養成し、最終的には、平成18年度末までに計150人の地域学芸員を養成することを目標としました。

(結果)

平成18年度は虎姫町三川でサテライト交流会を開催しました。また、地域学芸員養成講座では、これまでの自然や歴史に関する講座に加え、新たに現地研修(高島市新旭町針江地区の生活文化を守る取組、高島市高島町畑の棚田ふれあい交流事業の取組)のカリキュラムを設けて実施しました。

その結果、平成18年度の地域学芸員の新規養成者数は20人で、これまで養成した地域学芸員とあわせても目標より8人少ない142人とどまりました。

(結果の評価)

サテライト交流会では、地元虎姫町の「里山が好き女性の会」の活動報告や高月町西野の地域資源を生かした取組など、各地のサテライトの活動を広く紹介できました。

また、地域学芸員の養成については、それぞれの受講修了条件を高く設定したこともあり、申込者60人のうち、実際に修了した人は20人とどまりました。

(今後の展開)

引き続き、湖北エコミュージアム推進協議会の事業を充実させ、150人まで地域学芸員を養成できるよう努めるとともに、すでに地域学芸員に認定された人が地域で活躍できる場を提供していきます。



地域学芸員養成講座現地研修

(2) 魚のゆりかご水田推進事業〈田園振興課〉**(概要)**

ほ場整備が進んだ湖岸沿いの水田では、琵琶湖と水田の生き物の往来が遠のき、魚類の産卵・ふ化の場としての機能が低下しています。これらの水田を対象に、琵琶湖岸の排水路に魚道施設を設置することで水田内へ魚類を遡上させ、湖辺域における豊かな生態系の回復を図っています。

(目標)

上記の取組を展開し、琵琶湖固有種のニゴロブナの増殖と地域住民の環境保全に対する意識の高揚を図ることを目標としています。

(結果)

平成18年度は、9箇所の魚道施設でこの事業を実施し、各水田で多数のニゴロブナの産卵、ふ化、成長を確認しました。また、ニゴロブナを排水路や琵琶湖に放流し、水田の持つ多面的機能やニゴロブナの生態などを学ぶ場として、小学生や地域住民等を対象とした体験学習会（15回）を開催しました。

(結果の評価)

ニゴロブナの産卵、ふ化、成長を通して水田の持つ生態系保全機能を確認することができました。また、体験学習により地域住民の環境保全意識の高揚につながりました。

(今後の展開)

地域住民のこの事業に対する関心も高まり、平成19年度以降は、引き続き、魚道施設の普及を図りながら、世代をつなぐ農村まるごと向上対策を通して地域主体の取組へと定着するよう支援し、湖辺域の活性化につなげていきます。



魚のゆりかご水田推進事業

(3) 田園風景の保全と整備の推進〈田園振興課〉**(概要)**

湖北地域においては、豊かな水や土などの自然環境とともに農村の地域資源と歴史・伝統文化の発達により田園空間を形成してきました。これは、農業用水の開発に関わる歴史でもあり、その中から湖北特有の農村文化が保全・継承されてきました。これらの地域資源を地域の貴重な財産として正しく評価し、将来にわたって整備・保全するため、田園空間整備事業をはじめとした多くの事業を実施しています。

(目標)

上記の事業の実施に伴い、地域住民をはじめ、地域の各団体に田園空間博物館構想について一層の理解を深めていただくことを目標としました。

(結果)

博物館総合案内所（高月駅前）の完成に伴うオープニングイベントを実施したほか、地域住民との協働によるハリヨの引っ越し（湧水池整備前）やアジサイの植栽に取り組みました。

(結果の評価)

地域住民による地道な取組を通じて田園空間の持つ良さを再発見する機会となりました。

(今後の展開)

地域資源を巡る散策ルートや博物館総合案内所を活用するとともに、インターネットのホームページを通して田園空間博物館を管理・運営する組織を支援します。

4 環境づくりを進める体制

地域における環境保全活動の取組の輪を広げ、地域に根ざした活動へと定着させるための事業を展開しています。

(1) 環境活動ネットワークの構築〈環境課〉**(概要)**

環境課ホームページに「姉川流域環境づくりフォーラム」コーナーを開設し、フォーラムやメンバーの取組を広くPRしています。

また、湖北地域で活動する環境団体の相互の連携強化を図るため、インターネットを利用したネットワーク化を進めています。

(目標)

姉川流域環境づくりフォーラムで策定された環境取組指針（実践行動計画）の普及や地域全域への環境活動の輪の拡大、さらには、各環境活動団体の情報発信の場を確保することを目標にしています。

（結果）

環境課ホームページの「姉川流域環境づくりフォーラム」コーナーにより、フォーラムの活動状況を情報発信するとともに情報交換の場としての活用を図りました。

（結果の評価）

ホームページを適正に管理・運用することにより、環境活動の輪の拡大へ向けた情報発信と情報交換の場としての機能を果たすことができました。

（今後の展開）

今後もこのコーナーを活用し、姉川流域環境づくりフォーラム参加の各環境団体や地域住民、NPOの方々、それぞれの活動内容のPRや情報交換を積極的に行うことで、各環境団体などが他の活動団体や地域住民と交流の輪を広げ、それぞれが協働できる事業を開拓するなど、活動内容の充実に結びつけられるよう、引き続き内容の充実に努めます。

（2）天野川流域河川環境リーダー養成事業

〈長浜建設管理部管理調整課〉

（概要）

天野川流域はゲンジボタルの生息地として知られ、上流部の米原市長岡などで毎年、ホタル祭りが開催されています。また、天野川は、豊富な湧き水のある地蔵川や枝折川を支川に有し、バイカモやハリヨの生息が見られるなど、清澄な水が豊かに流れています。

こうした豊かな自然環境を守っていくには、地域住民との協働による「川の管理」や「川づくり」が重要であることから、引き続き、地域住民の川に対する関心を高めるとともに、「天野川流域河川環境リーダー養成事業」を展開して、地域住民による主体的な活動の定着に結びつけていきます。

（目標）

平成17年度に設置した（仮称）「あまのがわ塾」準備委員会を中心に、天野川に関心を持っていただけの人材を見出すとともに、（仮称）「あまのがわ塾」を開講し、天野川流域河川環境リーダーを養成する

ことを目標としています。

（結果）

平成18年（2006年）5月に「天野川塾」を開講し、活動拠点となるフィールド候補地の現地調査や自然観察会を行いました（それぞれ参加者15人、13人）。

また、岐阜県大垣市の「はりんこネットワーク」（地域住民が主体となって河川環境の保全活動を展開する団体間のつながり）との交流会を行いました（参加者15人）。

これらの活動により、平成18年度に天野川流域河川環境リーダーを13人養成することができました。

（結果の評価）

天野川塾を通して、天野川流域河川環境リーダーを養成することができ、そのリーダーが中心となって簡易水質検査（パックテスト）などを定期的に行うなど、地域住民の川に対する関心を高めることにもつながりました。

（今後の展開）

天野川流域の豊かな自然環境を守りながら、これらを次世代へ引き継ぐため、今後も天野川塾を通して地域住民の川に対する関心を高めるよう働きかけます。



天野川塾における現地調査

（3）姉川・高時川の高水敷保全事業

〈長浜建設管理部管理調整課、河川砂防課〉

（概要）

河川の高水敷に自生する立木群は洪水時に支障となります。しかし、その伐採方法や伐採後の管理にあたっては地域との協働が不可欠であるとともに、

河畔林としての環境も考慮する必要があります。

このため、学識経験者や地域住民らによる姉川高水敷保全協議会（以下、協議会）などを設立し、立木群の伐採方法や伐採範囲、さらには管理方法などについて具体的な方策を策定します。

（目標）

協議会を設立し、現状を把握するための学習会などを通して課題の抽出・整理を行うことを目標としています。

（結果）

学識経験者（2人）、地元自治会長（6人）、長浜市防災担当部局（4人）などによる協議会を設立し、その中で現状を把握するための学習会などを進める

ことで、課題の抽出・整理を行うことができました。（結果の評価）

協議会を通して学識経験者や地元自治会長から貴重な意見を集約することができ、課題解決に向けた前向きな検討とともに河畔林の管理のあり方について考え直す良い機会となりました。

（今後の展開）

今後も協議会を開催し、環境と調和した河畔林を目指しながら、洪水時に支障となる立木群の伐採方法や伐採範囲、さらには管理方法などについての具体的な方策を策定していきます。

第7節 湖西地域 ～見直そう自然の恵みー湖西からの発信～

〈高島県事務所〉

地域の概況、課題、環境づくりの方向

湖西地域は、滋賀県の北西部に位置し、琵琶湖と山が近接し、比較的狭い地域に集落が点在するという日本の原風景とも言える多様多様な景観を形成しています。そのような環境の中で多様な動植物と人々の生活が深く関わる生態系を作り出していることから、湖西地域は「森と里と湖」が繋がった一つのまとまりのある小宇宙とも言えます。その恵まれた自然環境から、農林水産業や観光等の産業面をはじめ、日々の暮らしにおいても有形無形に恩恵を受けています。

しかし近年の社会・経済情勢の急激な変化に伴い、琵琶湖や河川環境の悪化、里山の荒廃等、様々なことが問題になってきています。

湖西地域では、「見直そう自然の恵みー湖西からの発信」を合い言葉とし、恵まれた水環境を軸に、里山や河川、内湖など人々の暮らしに密着してきた自然環境の価値を再発見して保全や再生を進めるとともに、環境に対する負荷の少ない資源循環型の生活を実践し、自然と人が共生・共存できる地域づくりを行うため、以下の項目について取り組みました。

取組

環境づくりを進める体制づくり

1 「湖西・森と里と湖のミュージアム」構想推進事業〈総務出納課〉

湖西地域の自然や歴史、風土、生活などを、癒しの場・体験交流の場・環境学習の場として位置づけながら、バランスの取れた地域環境の保全を図り、地域の活性化に向けた新しい仕組みを地域ぐるみで考える「湖西・森と里と湖のミュージアム」構想を平成14年(2002年)10月に策定しました。

この構想に基づき、地域住民や関係団体との連携を図りながら「地域での盛り上がり・体制づくり」と「地域主体の具体的な取組の進展」を図っていきます。

（課題）

- ・取組意欲を持った人、団体が育ち、地域での取組が進むこと。
- ・地域情報の情報発信システムが構築されること。
- ・全体をコーディネートする推進体制が、住民主導のネットワークを核として組織されること。

（取組の概要）

（1）^も ^り ^つ ^こ 森・里・湖会議（エコツーリズム推進協議会）の開催

地域での取組の核となる人々や構想策定段階

から関わっているコーディネーターの参画を得ながら、ミュージアム構想の円滑な推進を図りました。

(2) 住民参画型情報発信システムの構築

ミュージアムサポーターとの協働によるホームページの企画運営を行っています。

地域の魅力発信のため情報紙「もりっこ通信」を年4回発行し、市内の各戸に配布しました。

(3) 湖西森・里・湖（もりっこ）交流会の開催

地域での取組事例や成果を共有し、様々な地域において取組を波及、促進するために必要な連携・協力の場づくりを行いました。

開催期日等：平成19年3月24日（土）

「竹の火祭り」 参加団体61団体

(4) 国立公園等エコツーリズム推進モデル事業の推進

「湖西・森と里と湖のミュージアム構想」に基づき、水の流れ、命のはぐくみを体感する「流域里山塾」を基本コンセプトとして、ツアー参加者が自然や地域文化の保全・継承へ向け、具体的な行動を起こす機会を提供しました。

(目標)

(1) 「地域での盛り上がり」づくりに向けて

「湖西・森と里と湖のミュージアム」ホームページアクセス件数

目標値 累積35,000件（対前年プラス10,000件）

(2) 「体制づくり」と「地域主体の具体的取組の進展」に向けて

「湖西森・里・湖交流会」への参加団体数

目標値 58団体（平成17年度実績53団体の1割増）

(結果)

(1) 「湖西・森と里と湖のミュージアム」ホームページアクセス件数 36,900件

達成率105%

(2) 「湖西森・里・湖交流会」への参加団体数

61団体 達成率105%

(結果の評価)

(1) 「湖西・森と里と湖のミュージアム」ホームページアクセス件数については、ミュージアムサポーターによる適時の更新や地域の人々に親しみやすいホームページづくりに努力した結果、

目標を達成することができました。

(2) 「湖西森・里・湖交流会」への参加団体数増に向けては、各団体からの独自の呼びかけも行った結果、61団体の参加があり、着実な交流の場の創出が確認できました。

(今後の展開)

地域において住民等による主体的な取組が芽生えつつあり、こうした取組をサポートし、地域への定着と発展や、さらなる共感の輪と連携を進めるために必要となる拠点機能のあり方の検討を始めます。

また、地域内外に分かりやすい形での情報発信を一層充実させていくことも課題であり、効果的なPRに努めていきます。

こうした取組を継続することで、地域連携によるエコツアー商品の開発など住民主導の事業展開につながるものと考えます。

よって、引き続き上記の(1)について目標を設定し、地域での新たな活動のきっかけづくりや団体間の連携による活動や交流の促進など、住民参画による情報発信等を通じてミュージアムづくりへの浸透と参画機運の醸成を図っていきます。

里山や河川、内湖など恵まれた水環境を軸とした自然環境の保全

2 かぐや姫の川づくり事業〈管理調整課〉

(地域の概況、課題等)

安曇川を代表する景観である竹林は、過去に堤防の補強として植えられたようです。つい最近までこの竹が地場産業の扇骨づくりや建築用資材、漁業用資材また農業用資材等に幅広く利用が図られ、地域の生活や産業を支えてきました。

しかし、近年社会経済の構造が大きく変化し、竹の利用が少なくなったこと等から、管理の行き届かない竹林が竹藪化したことにより治水上の支障や地域環境の悪化を招くなどの諸問題が発生しています。

(概要)

「安曇川の良い竹林景観を蘇らせよう！」を合い言葉に地元の有志を中心に設立された「安曇川竹遊会」が実施する川づくり事業の取組が進められています。

(目標)

- (1) 竹林の伐開整備作業と関連イベントの開催
 - (2) 学習会の開催
 - (3) 他所との交流
- (結果)

- (1) 降雨でイベントは中止になったものの、会員や有志約30名が参加し、竹林約800m²の伐開整備と、竹粉碎機のデモを実施しました。
- (2) 竹林整備行為と河川法との関係について、講師を招き、12名の会員が学習しました。
- (3) 愛知川右岸で行われたイベントに会員5名が参加し、甲賀で開催された「川フォーラム」に同4名が参加、高島地区内で開催された他機関開催のイベント等にも数名が参加しました。

(結果の評価)

- (1) 伐開作業の体験を通じて、河川環境の改善や保全の大切さについて、問題意識の共有を図ることができました。

さらに竹粉碎機のデモを通じて、今後の竹の処分のあり方や竹の有効利用について新たな取組の仕方が期待でき、また地域の振興にも役立ったと思われま

- (2) 現状の竹林整備行為に関する河川法の取扱いと、竹を河川生産物として有効利用した時の河川法の取扱いの違い等が分かりやすく説明され、会員の知識の習得につながりました。今後の会の活動に大いに参考になったと思われま
- (3) 他所との交流により、他の河川等での取組を研修することにより、今後の会の運営の参考となりました。

(今後の展開)

今後は、同事業に賛同する新規参入団体やこれまでの竹遊会の事業を踏まえ、活動に対するより一層の支援を行っていきます。

3 流域アジェンダ実践促進事業

〈環境森林整備課〉

(概要)

湖西地域の豊かな水環境を保全し、琵琶湖の総合保全を推進するため、旧5町の五つの流域(環境保全)協議会で環境調査、自然観察会、河川美化活動などの取組が実施されており、平成17年(2005年)1月には町村合併による高島市の発足に伴い、これら

五つの協議会で構成する「高島地域流域協議会」が同年3月に設立されました。この高島地域流域協議会をネットワークの核にして、五つの流域(環境保全)協議会で住民、事業者、行政などの協働による各流域の特性に根ざした環境保全の取組が進められています。

(目標)

湖西地域の五つの流域における身近な水環境や自然環境について、地域に根ざした取組を実践していただき、琵琶湖の水環境の保全につなげることを目標にしています。

(結果)

五つの流域(環境保全)協議会で水環境および自然環境の保全・修復に向けた環境調査や河川美化活動などが実施され、高島地域流域協議会でこれらの取組についての意見交換会、現地交流会および水質研修会などを開催するとともに、ホームページを利用して調査結果等を広く情報発信するなどの取組を実施しました。

(結果の評価)

各流域の水環境・自然環境の価値が再認識されるとともに、生物の調査結果等を基にホタルの復活に向けた具体的な取組が検討されるなど、さらなる改善への取組が進められつつあります。

一方で、具体的な取組を実践し着実な環境改善を図るためには、各流域協議会の幅広い連携が必要であることから、ネットワーク組織である高島地域流域協議会において、さらなる情報交換や連携の促進を図る必要があります。

(今後の展開)

これまでの取組を基に、具体的な環境保全・修復への取組を進めるとともに、高島地域流域協議会の活動をさらに活発化することなどにより、各流域協議会との連携を促進しながら流域の特性に応じた取組を進めます。



現地視察交流



水質研修